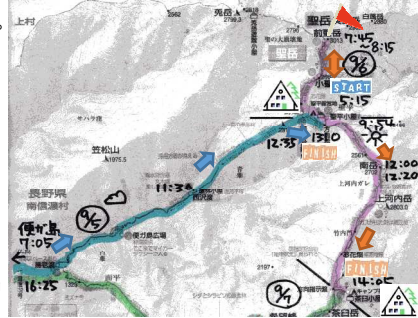


山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
85	聖岳	84/100	3,013
登頂年月日		山頂天候	年齢
2010.9.6			64
平成22年		山中宿泊小屋	
メンバー		主催 毎日新聞旅行	
単独	複数	人数	リーダー
	ガイド	男6	川村氏
	ツアー	女2	
同時登頂百名山		別々登頂	9/7光岳へ
		縦走登頂	
コース	9/4		毎日新聞社前8:45⇒15:00下栗の里⇒16:12遠山温泉大野屋旅館
	9/5		旅館5:40⇒便方島7:05⇒12:35⇒薊畑分岐⇒13:10聖平小屋 <歩程6.05 標高差 登り合計1,660m 下り合計140m>
	9/6		小屋5:15⇒6:33小聖岳⇒7:45聖岳8:15⇒14:45茶臼小屋 <歩程9:30 標高差 登り合計1,437m 下り合計1,093m>
<p>今回の南アルプス2座縦走の歩程を集計すると3日間で28時間22分、登りと下りそれぞれ3,582mで、歩き堪えがあった。9/6朝5時過ぎに聖平小屋を出発。聖岳が朝焼けをバックになだらかなシルエットを見せてくれた。聖岳の頂上は360度の展望。雲海の上に富士が浮かんでいた。南アルプスからの展望には常に富士がある。</p>			



山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
86	光岳	85/100	2,591
登頂年月日		山頂天候	年齢
2010.9.7			
平成22年		山中宿泊小屋	
メンバー		主催 毎日新聞旅行	
単独	複数	人数	リーダー
	ガイド	男6	川村氏
	ツアー	女2	
同時登頂百名山		別々登頂	9/6聖岳より
		縦走登頂	
コース	9/7		小屋4:43⇒7:38易老岳⇒10:07光岳10:50⇒16:25便方島⇒旅館 <歩程11:47 標高差 登り合計545m 下り合計2,269m>
	9/8		旅館⇒飯田IC⇒養老SA⇒13:50梅田<9/5-7 歩程合計35.3km>
<p>9/7、茶臼小屋を5時前に出た。暫らくして富士の左に朝日が顔を出した。尾根道には赤い岩が随所で見られ、「赤石山脈」を歩いていることを妙に実感した。尾根筋のお花畑で花々を写真に収めた。ガイドの川村さんは花の説明はしないが、見える山々の名前をストックをかざして説明してくれる。彼は麦酒好きで缶ビールを沢山持参する。小屋に着きお役目が解けると食事前に一気に5、6本飲み干す豪傑だ。小屋では500cc缶は800円はするので背負ってくる価値はある。缶や瓶の持ち帰りは面倒だが、いつも新潟菊水の「ふなぐち」は持参する。</p>			



山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
87	白山	15/100	2,702
登頂年月日		山頂天候	年齢
1995.7.9			49
平成7年		山中宿泊小屋	
メンバー		主催 読売旅行	
単独	複数	人数	リーダー
	ガイド	40	
	ツアー		
コース		7/8	別当出合13:10⇒(砂防新道)16:45白山室堂 <歩程3:35 標高差 1,198m>
		7/9	白山室堂8:00⇒11:10別当出合<歩程3:10 標高差1,198m>
<p>7/2からずーっと雨が続いて、前日一旦曇ったが出発当日は再び雨、それも土砂降りだ。白山スーパー林道脇の川が濁流となっていた。別当出合からはまるで沢登り、ゴアテックスの中は汗で濡れ、後半は風雨で寒くヘトヘトで宿舎に着いた。ここまではよく有るのだが、宿舎の中が大変だった。濡れた雨具やザックカバーで床がびしょびしょ、それを吸った毛布がじっとり、上段の布団までが湿って重かった。他の登山客を含めて参加者の服装や装備を見ると山には馴れていない人が多く、結果こうなった。そもそもリーダーに問題が有った。登りの隊列が完全に崩れて前後の差が大きくなり開いたまま到着人数の確認も無し、その後リーダーの姿は無いままだった。以降このツアーは遠慮している。</p>			



山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
88	荒島岳	69/100	1,524
登頂年月日	山頂天候	年齢	3年振りの百名山だ。記憶に薄い山もあるが、全く思い出せないのがこの山だ。メモによると休憩のパーティに「追いついた途端に出発」の繰り返しで参っていた。サラリーマン卒業、自営、そして胃の手術などでブランクが3年、体力不足
2006.5.13 平成18年		60	
メンバー	主催	サンケイ旅行	
単独	複数	ガイド	人数
			29
コース	梅田6:30⇒勝原スキー場11:30⇒山頂⇒勝原スキー場17:40⇒21:30梅田 <歩程6:10 11.2km 標高差 1,263m>		
<p>白山と荒島岳は深田久弥の故郷、石川県大聖寺に近い山で思い入れがあったようだ。平成2年加賀の山中温泉に行った折りに彼の生家と「深田久弥山の文化館」を訪問してきた。生家には「深田印刷部」と言う看板がそのまま残されていた。文化館は明治の赤瓦の木造校舎のようなレトロ感漂う建物であった。一人の初老の男性が外に立っっていて、入館するまでボランティアで説明を下された。</p> <p>展示は勿論だが著述家らしく図書が充実している。別棟にカフェも有り改めてゆっくり読書にきたい。大聖寺の街は古い街並みが残っていて散策も楽しい。桜の時期に大聖寺川の渡しの船にものんびり乗ってみたい。</p>			

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
89	伊吹山	73/100	1,377
登頂年月日	山頂天候	年齢	1970年の1月、私は大阪の住宅メーカーに就職し、大阪に向かう新幹線の窓から見えた伊吹山の姿に痛く感動した。山は全体が白く堂々として雄大だった。一方夏場は禿げ山で西面は採石で大きくえぐられて哀れな姿になり見るに忍びない
2008.6.22 平成20年		62	
メンバー	主催	関西ツアー(パステルツアー)	
単独	複数	ガイド	人数
			男12 女16
コース	梅田8:00⇒登山口10:25⇒14:20山頂⇒15:15山頂駐車場1⇒18:00梅田<歩程4:50 標高差1,147m>		
他の登頂	同年4/30に頂上～北尾根国見峠縦走<7:35>		
<p>伊吹山は「花の名山」であり「薬草の山」でもある。私は友人が主催する自然観察会に通って、草花や樹木の勉強をさせてもらった。勢い余って名前だけだが「自然観察指導員」の資格まで取った。仲間たちと「自然王国」と言うNPO組織を結成して楽しいイベントも数多く実施した。一方、山には季節毎の植物図鑑を持参して知らない花の名前を調べたり、その山の固有種を見つけては喜んでた。しかし、その後ツアーに参加する機会が増えてからは、登山途中に一人だけ花を見に留まるのが難しくなり、だんだん観察作業は遠のいてしまった。伊吹山の山頂からは琵琶湖が近くに見えた。琵琶湖の冬は比叡降ろしの強風に見舞われるが、伊吹山の麓は雪で時々新幹線を止めたり遅らせたりする。</p>			

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
90	大台ヶ原山	11/100	1,695
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
2017.11.4 平成5年		71	桃の木山の家
メンバー	主催	「桃の木山の家」で両足が撃ると言う初めての辛い経験をした。廊下の隅で七転八倒している私を一人の男性が最後まで介抱してくれた。	
単独	複数	ガイド	人数
			男6 女5
コース	11/4	新大阪8:00⇒11:05宮川ダム船⇒登山口11:55⇒16:00桃の木山の家<歩程4:05標高差165m>	
	11/5	桃の木山の家6:10⇒12:30日出ヶ岳⇒駐車場⇒18:30天王寺 <歩程7:30標高差1,210m>	
その他の登頂日	初回、次兄と1993.10.30に東大台4時間周遊(47歳) 1996.8.13松下中央合唱団の7名とバスで		
<p>大台ヶ原を周遊するだけでは標高差が265mしかない、そこで大杉谷廻行を加えるプランがある。大台ヶ原側から下るのではなく、今回は宮川ダム側から大台ヶ原の主峰、日出ヶ岳を目指した。2004年9月の台風21号で登山道や山小屋が被害を受けて、開通するまで10年もかかった。大杉谷渓谷は黒部渓谷(富山県)や清津渓谷(新潟県)と並ぶ日本3大渓谷だ。個性に富んだ滝が多く、水量も豊か、どれも絵になる。歩いてみて文句なく素晴らしい。もっと早く来れば良かったとつくづく思った。2日目、日出ヶ岳に着くまでがしんどかったがバスで殆ど登ってしまう逆コースでは得られない達成感があった。毎年でも来たい秀逸のコースだ。</p>			